

No 3928



百九拾九號

英國諸裁判所訴訟入費之事
英國諸裁判所用度之事

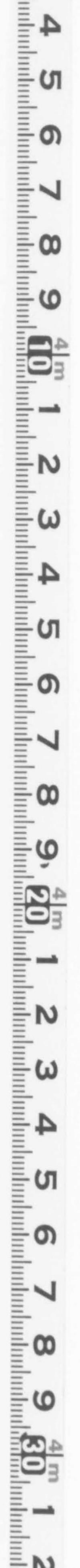
庫文省法司			
		政治及法律部	書門
		三九二八	
冊架函號			

225

編纂課

B570
S1
5

E



B570
S 1
5

英國諸裁判所訴訟入費之事

英國諸裁判所ニテ訴訟入費トシテ訴訟落着ノ後チ原被両造間ニ於テ算計ス可キモノ通常二種ノ費用ヨリ成ル

其一ハ裁判所ノ拂フ所ノ諸種ノ手数料ニシテ其二ハ代言人代訟人カ得ル所ノ諸般ノ謝金手當トス

右兩種ノ費用ハ各其定額アリテ之ヲ徴スル必ス規則ニ準拠ス可キナリ而シテ此規則ハ裁判所ノ種類ニ從テ彼此相同シカラス

即チ諸上等裁判所ハ上等裁判所普通ノ規則アリ地方裁判所ハ地方裁判所限リ用ユル所ノモノアリ又其他ノ諸裁判所ハ各其裁判所ノ之ノ

モノアルナリ

是等ノ規則多クハ政府ノ布告ニ基キ其裁判所
ノ手数料ニ係ルモノハ大蔵省ノ委員之ヲ編シ
又其代言人代訟人及ヒ証人等ノ謝金午當ヲ
定ムル者ハ裁判官之ヲ撰シ共ニロイヤル司法卿ノ批准
ヲ得テ發告スル所ニ係ル
右ノ如ク裁判所ノ種類ニ拠テ其規則ヲ異ニス
ル所以ハ概シテ訴訟ノ種類相同シカラサルト
又同一ノ訴訟ト虽モ其取扱ノ手續ニ差違アル
ニ之レ由ルナリ

蓋シ規則ニ掲クル費額ハ至トシテ實際ノ出費
ヲ徴収スルニ在レハ則チ各種ノ裁判所ニテ互
ニ其規則ヲ異ニスト虽モ實地同一ノ手数ニ係

ルモノ例之ハ裁判所ノ命令状送達費登記料字
字料等其他旅費日當ノ如キハ固ヨリ彼此大差
アルナリ

又各種ノ裁判所ニ於テ其裁判所ニ徴収ス可キ
手数料モニ代言人代訟人等ノ受納ス可キ費目
中請求ノ金高及ヒ訴件ノ性質ニ準シテ其額ヲ
多寡スルモノアリ例之ハ地方裁判所ニテ初メ
訴状ヲ進呈スル片請求ノ金高ニ準シ每一磅ニ
一シリングノ手数料ヲ拂フヘシ而モ喚出状
ノ送達ニ使吏ヲ要スル片ハ右ニ一シリング
ヲ増シ又被告三人以上ナル片ハ每一人ニ付一
シリングヲ加フルカ如キ是ナリ

裁判所ノ手数料ハ何レモ皆其手数ヲ要請スル

者ヨリ仕拂フ可キナリ而メ其拂方ヲ為サ、ル
者ハ裁判官ノ命令ニ依テ之ヲ通常ノ裁判上ノ
負債人ヲ以テ論ス可キナリ
右手数料ハ表記シテ常ニ裁判所中ノ公所ニ
書記局ニ掲示シ置ヘキナリ
表中ノ手数料ニ特別或ル吏員之受納ス可キモ
ノト一般其裁判所ニ徴収スルモノトノ區別アリテ各其項ヲ異ニス

英國ノ諸裁判所ニテハ裁判所ノ手数ハ之ヲ經
ル毎ニ大概其料アラサルヲ無シ蓋シ近世ニ及
フ迄英國諸裁判所ノ吏員ハ裁判官ヨリ使吏等
ニ至ルマテ尽ク其手数料ヲ以テ各自ノ俸給ト
為シ又其中ノ或ル種類ハ裁判所ノ諸雜費ニ充

テシモノナリ而メ其手数料ヲ拂フニハ當時現
ニ通貨ヲ用ヒシナリ然ルニ此制度ノ行ハレタ
ル時ニ在テハ事務上許多ノ弊害アリテ上下共
ニ之ヲ苦シムカ為メ遂ニ千八百三十三年國會
ヨリ委員ヲ命ジテ其改正ヲ調査セシメタルニ
該委員ノ意見ニ拠テ從來ノ制度ヲ廢止シテ裁
判所ノ吏員ハ裁判官ヲ始メ尽ク定リタル相當
ノ給俸ヲ國庫ヨリ受ルルニ成タリ
此ニ至リ裁判所ニテ徴収スル手数料ハ悉皆政
府ノ歲入ヲ以テ之ヲ視而メ裁判所吏員ノ給俸
ハ定額ニ從テ右收入金ヲ以テ支給シ其餘贏ア
ル片ハ國庫ニ輸リ其不足スル時ハ國庫ヨリ之
ヲ充テ毎半年又ハ四季ニ其計算ヲ當該吏員ヨ

リ大藏省ノ検査委員ニ差出ス可キナリ
再後ハ裁判所ノ吏員中全ク定額ノ俸給ノミヲ
受ル者アリ又俸給外ニ手数料ヲ納ル者アリ他
ニ尚オ手数料ノミヲ以テ俸給トスル者アリト虽
凡從前ノ制度ニ比スレハ更ニ其趣旨ヲ異ニス
ルカ故ニ復タ其弊ヲ見ルナシ
手数料ノ課目金額ヲ臨時増減加除スル權ハ一
ニ司法卿ニ在トス
右改革後ハ總テ訴訟人ヨリ裁判所ニ收納スル
手数料ハ別段其為メニ發行スル大藏省ノ印紙
ヲ用テ拂ハシム可キナリ但シ手数料ニ批リテ
ハ尙オ現通貨ヲ以テスルモノ無キニアラス
裁判所ニ差出書面ハ大体何レモ印紙ヲ貼用ス

ルヲ要ス又裁判所ノ吏員ニ或ル事ヲ為サン
テ請フ片ハ其請フ所ノ事柄ヲ簡畧ニ認メ其書面
ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ差出ス可キナリ其他裁
判所ノ帳簿ニ登記スルヲ要シ又ハ裁判所吏員
ノ見留ヲ欠ヘカラサル書類モ同様亦印紙ヲ貼用
ス可モノ多ニ居ル
右印紙賣捌ノ方法先ニ犯則者ノ処分等ニ付テ
ハ大藏卿ノ布達ニテ別ニ規定スル所アリ
代言人代訟人ノ受納スルキ謝金等當其他ノ入
費ハ其細目ニ定規アルハ勿論統計訴訟當初ヨ
費追ノ總高ト虽凡亦預メ之カ制限ヲ立ツルアリ
例之ハ地方裁判所ニテハ代訟人カ得ヘキ統計
ハ其訴訟以テ請求スル金高三十磅迄ハ一磅十

シルリシグヲ受納シ得ヘキナリ其以上五十磅
迄及ヒ他ハ該裁判所権内ノ訴件ニ付二磅ヲ超
過スルヲ得ス又代言人ハ二磅以上ヲ受領シ得
ヘカラサルカ如キ是ナリ而メ右制限上ニ入費
ヲ要スル時ハ別段ニ裁判官ノ意見ヲ請ハサル
可カス

代言人代訟人ノ謝金午當及ヒ其他ノ入費細目
表ハ甲乙二等ニ區別スルモノニシテ訴訟ノ性
質ニ事務ノ情實ニ因テ其甲費額ヲ受ヘキア
リ又其乙ヲ得ヘキアリ而メ其何レヲ得セシム
可キ乎ハ書記官ノ鑑定スル所ニシテ裁判官之
ヲ批准ス

右表中ニ揭示ナキ費目ニ表上ノ費用ト虽凡

之ヲ増減スルヲ要スルハ書記官勘定シテ裁判
官之ヲ批准スルニ於テハ之ヲ為ス丁ヲ得ヘキ
ナリ

凡テ訴訟入費ノ額ヲ允准スルト其之ヲ償却ス
ヘキ人ヲ指定スル事ハ一ニ裁判官ノ意見ニ在
トス

凡テ代訟人ハ請持ノ訴訟ニ於ケル入費ハ各々
詳細ニ簿記シ置キ其之ヲ相手方ヨリ受取ト自
己ノ訴訟依頼人ヨリ取立ヘキトヲ問ハ訴訟落
着ノ上ハ式ニ從テ淨書シ之ヲ書記官又ハ相當
ノ吏員ニ差出シ其検査ヲ請フヘキナリ

凡テ訴訟ニ勝ヲ得タル者ハ其裁判所ニ拂フタ
ル手数料ハ勿論其他ノ費用ト虽凡大体ハ相手

方ヲレテ償却セシムルヲ得ナリ
 英國ニテ訴訟ノ性質請求ノ金高等ノ差違ニ拠
 テ具裁判所ヲ異ニシ又裁判所ノ異ナルニ後テ
 訴訟入費償却規則ヲ相同フセサル丁上文ニ陳
 述スルカ如クナルニ因リ詳細ニ訴件ヲ識別ス
 ルニ非サレハ訴訟入費ヲ得ヘキ權利系ニ之ヲ
 償フヘキ義務ニ付容易ニ利害得失ヲ生スルカ
 故ニ原告人ニ在テハ相當ノ裁判所ヲ撰ム丁殊
 ニ緊要ナリトス又被告人ニ於テモ其已レニ係
 ル訴訟ヲ他ノ相當裁判所ニ移スヲ得ル片ハ之
 ヲ移ス丁ニ依テ訴訟入費上大ニ得失アルモノ
 ナリ
 原告人若干金高ヲ請求セハ訴訟當初ヨリ其金

高ニ準シタル入費ヲ用エ、レ然レ其判決ニ
 至テ遂ニ請求セシ大ケノ金高ヲ得ル丁能ハナル
 片ハ訴訟入費ハ判決ノ金高ニ準レテ計算ス可
 キナリ故ニ其請求ノ高ト判決ノ高トノ差ニ拂
 タル入費ハ原告ノ損失ニ帰スルモノトス
 上等裁判所ヨリ移シテ地方裁判所ノ審酌ニ付
 シタル訴訟ニ付テハ其上等裁判所ノ審理中ニ
 拂フタル裁判所ノ手数料毛ニ其他ノ訴訟入費
 ハ上等裁判所ノ規則ニ準拠シテ償却セシム可
 キナリ
 凡テ訴訟入費ヲ償却セサル者ハ裁判上ノ負債
 人ヲ以テ之ヲ論シ其督責ノ方法極メテ嚴重ナ
 ルモノトス蓋シ如此裁判上ノ償却ヲ怠タリ又

ハ否ム者ハ裁判所ヲ蔑侮スル者ト看做スカ故
ナリ

訴訟ノ性質ニ因テハ其開始又ハ審理中ニ裁判
官被告カ訴訟入費ヲ得、キ權利ヲ安固ナラシ
メン為メ入費ノ金高ヲ預定シ原告ニ命シテ其
償却ノ保證ヲ為サシムル事アリ此保證ハ證書
ヲ用テ為ス可クシテ書面上必ス二人以上ノ保證
人アルヲ要ス

又此場合ニ於テ右ノ證書ヲ裁判所ニ差出ヲ欲
セサル者ハ其證書面ニ記載ス可キ該預定ノ金
高ヲ現ニ裁判所ニ納置之キナリ
凡テ原告英國內ニ住居ナキ片ハ現金又証書ヲ
裁判所ノ書記官ニ納置キ以テ訴訟入費ノ償却

ヲ保證スルニ非サレハ乃テ詞訟ヲ開始スル丁
ヲ得ハカラス

蓋シ訴訟ノ開始ニ先テ原告ヲシテ入費償却ノ
保證ヲ出サシムル丁ハ通常原告ノ住居ニ関ス
ルモノ多ニ居ル故ニ原告ノ特リ外國ニ住居ス
ル場合ニ限ラズ内國ニ在ト虽モ確然タル住居
ヲ定メサル者モ代訟人カ原告ノ住居ヲ明指
セサル片等ハ皆テ保證ヲ命スルモノトス
凡テ原告ヲシテ右ノ保證ヲ出サシムル丁ハ被
告ノ請求ニ拠ル可ケレハ被告ニ於テ訴状ニ原
告カ外國ニ住居スルヲ認ムレハ即チ裁判所ニ
出頭ノ上速ニ原告ノ保證ヲ差出サン丁ヲ請求
ス可キナリ若シ其時ヲ失フニ於テハ被告ハ此權

利ヲ得ヘカラス但シ相當ノ情實アル片ハ地限
ニアラス

凡テ原告カ訴訟入費ニ於ケル權利ハ成法ヲ以
テ常ニ嚴重ナル制限ノ軌軌内ニ在ルモノトス蓋
シ是レ偏ニ輕浮鎖末煩厭哄唆ノ訴訟ヲ預過ス
ルノ意ニ出ルモノナリ

裁判官ハ總テ原告ノ出席ヲ欠タル時被告ノ自
己出頭ノ入費並ニ勞動ノ報償ヲ原告ヨリ受取
ラシムルヲ得ナリ

英國諸裁判所用度之事

英國ニテハ諸裁判所入費即チ裁判官其他裁判
所附諸役員ノ俸給ヨリ物品買入等ノ諸雜費ニ
至ル迄テ議事院ノ決議ニ於テ尽ク之ヲ國庫ヨ
リ支給ス

又諸裁判所ノ受納即チ手数料及ヒ案稅案稅ハ
原語ハ
ルセン判所ニ於テ徵收スル諸税金高ニ準レテハ總
各裁判所ニ於テ徵收スル税金ヲ云フナリ

依テ裁判所ノ受納ハ國庫ノ歲入ヲ成シ又裁判
所ノ入費ハ國庫ノ歲出トナルモノトス

總テ裁判所ノ手数料并ニ案稅ハ大藏卿ノ定ム
ル額ニ從ヒ尽ク印紙ヲ用テ徵收シ貨幣ヲ以テ
スルヲ無シ然レモ右ハ高等裁判所ニ限リ其下

等裁判所ニ至テハ未タ全ク貨幣ヲ用テスルモ
ノ、如シ
又諸裁判所ノ入費ハ尽ク國庫ヨリ支給スト云
フト虽モ唯是レ會計上然ルノミニテ實際ニハ
各裁判所其受納ヲ以テ其入費ニ充ルカ如シ
英國高等裁判所ニ於テハ判事書記其他所属ノ
役員ハ尽ク議事院ヨリ備フル所ノ定額ノ俸給
ヲ受ルノミニテ其徴収スル手数料等ハ皆裁判
所ノ入額ヲ成シテ自用ニ供給スルヲ得ス
然レモ下等ノ郡裁判所ノ如キハ書記以上ノ役
員ハ定額ノ俸給ヲ受其以下ニ至テハ定額ノ俸
給ト手数料ヲ受ヘシ又書記ノ俸給ハ事務ノ繁
簡ニ比例シテ其額ヲ増減ス

英國諸裁判所ノ定額金ハ司法卿立案シ大蔵卿
ニ照會シテ議事院ニ建議シ議事院之ヲ決定シ
大蔵省ニ令シテ之ヲ支給セシム
諸裁判所ノ受納金ハ大蔵卿立案司法卿ニ商議
シテ各裁判所ニ令シ國庫ニ收納セシム
以上陳述スル所并ニ是ニ附属スル而餘ノ事情
ハ左ニ按記スル布告條令ニ拠テ知ルヲ得ヘシ
千八百七十五年布告司法制改正條令第二十
六條

司法卿ハ高等裁判所判事三人以上ノ協議同
意并ニ大蔵卿ノ批准ヲ以テ上等裁判所控訴
院其他諸裁判所并ニ裁判所付諸役員ニ於テ
徴収スル手数料及ヒ索税ノ額目ヲ制定シ或

ハ増減交換スル権ヲ有ス
右條ノ旨意ニ從ヒ布達スル司法卿ノ命令ハ
其及フ限りハ議事院ノ布告ト同一ノ效力ア
ルモノトス

斯ク徴収スル手数料并ニ案税ハ別ニ指令ス
ル所アルニ非サレハ大蔵省ノ收納ニシテ總
テ國庫ニ輸送ス可キモノナリ依テ左ノ規則
ヲ遵守セシム

第一 允ソ手数料并ニ案税ハ別ニ命令スル
所アルニ非サル限ハ印紙ヲ用テ徴収ス可シ
但シ其印紙ヲ用テセサル分ハ命令ニ示ス方
法ニテ徴収算勘及ヒ仕拂ヲ為ス可キナリ
第二 右印紙ハ大蔵省ノ布達スル如ク印刷

用紙 訴訟用印紙ノ如ク又ハ貼用印紙ノ証券印紙

ノ兩種タル可シ

第三 大蔵卿ハ司法卿ノ批准ヲ得テ手数料
ノ金高ヲ布達シ印紙ノ用方ヲ制定シ并ニ其
印紙ヲ貼用シタル書類ノ效用ヲ明示シ及ヒ
消印ヲ確証シ印紙ヲ簿記スル等ノ事項ニ付
必用ト認ムル諸規則ヲ設立ス可シ

第四 畧ス

第五 内國収税委員ハ大蔵卿ノ指揮ニ從ヒ
本條令ニ基キ印紙ニ據テ收納スル金高ハ別
ニ帳簿等ヲ備ヘテ其會計ヲ特筆スヘシ又本
則ノ実施ニ付費ス所ノ金高ヲ差引精算ノ上
其受納ノ金員ヲ大蔵省ニ輸送シ以テ國庫ニ

納付ス可キナリ

千八百七十五年裁判所手数料ニ付テノ大蔵

卿ノ命令

大蔵卿チヤイルニス司法卿ニ照會ノ上命令ス

ルヲ左ノ如シ

第一條 別表ニ掲ケル手数料及案税ハ上等

裁判所控訴院其他裁判所并ニ裁判所々属ノ

役員役員ニテ徴収ス可キモノニシテ此手数料

料及ヒ案税ハ印紙ヲ用テ取立大蔵省ノ命令

ニ準シテ其受納金ノ用方并ニ會計ヲ報告上

申ス可シ但シ各地方書記官（地方書記官ニシテ）地方書記官（地方書記官ニシテ）

置スル者（高等裁判所ノ如キモノナリ）ハ裁

ニ於テハ追テ違スル所アル迄ハ印紙ヲ用テ

ルニ及ハス通貨ヲ以テ之ヲ徴収セシムヘシ

千八百七十五年司法卿命令第三十五條

第十五節 各地方書記官ハ其裁判所ニ受納

スル金員ハ總テ大蔵卿ノ命令スル方法并ニ

期限ニ従テ之ヲ大蔵省ニ送付及計算ス可シ

千八百七十五年司法制改正條令第二十八條

大蔵省ハ上等裁判所控訴院并ニ其他裁判所

役員役員等ノ本布告ニ基キ手数料ヲ徴収スル

者ニ付毎年一度前分ノ受納及出費ヲ明示ス

ル所ノ計算帳ヲ調制セシム可シ

右計算帳ハ大蔵省司法卿ニ照會ノ上指揮ス

ル所ニ従ヒ其種類額目等ヲ詳記ス可キモノ

トス

之ニ依本布告ニ基キ手数料ヲ徴収スル諸役
局役員ハ右計算帳ヲ調制スル為メ大蔵省カ
要スル所ニ從ヒ其指示ニ準シテ各之カ報告
ヲ為ス可シ

右計算帳ハ毎年其會計年度期日後一月以内
ニ兩議事院ニ開申ス可キナリ

同條令第十五條

上等裁判所及控訴院ノ判事ニ交付ス可キ俸
給手當并ニ年金ハ大蔵省ノ所知ニシテ國庫
又ハ同所同院ノ受納金中ヨリ之ヲ仕拂フ可
シ

同條令第八十五條

本布告ニ遵テ命セラレタル裁判所附監査官

其他ノ諸役員ノ俸給ハ大蔵省カ司法卿ノ認
可ヲ得テ申立ル所ニ於テ議事院ヨリ為メニ
備タル金額中ヨリ之ヲ仕拂フヘシ

同條第八十條

是迄ノ裁判所又ハ裁判官附諸役員ノ本布告
ニ於テ其職權ヲ變更シタル者ニテ從來手教
料ヲ以テ俸給ト為ス者并ニ此布告ニ因テ所
得ヲ損シタル者ニハ大蔵省ニ向テ其補フ請
求スル權利ヲ與フヘシ

郡裁判所用度

千八百四十六年布告郡裁判所條令ニ於ルニ郡
裁判所ヲ設立保持スル入費ハ從來詞訟人ノ請
求金高ヲ準シテ徴収スル案稅ヲ以テ成ル所ノ

資本金ヨリ仕拂フ事ニテ判事并ニ裁判所附諸
役員ハ各皆手数料ヲ受納シ之ヲ以テ其俸給ト
為シタルナリ然ルニ方今ハ總テ右等手数料ノ
大概ハ尽ク大蔵省之ヲ受納シ而シテ判事其他
役員ニハ定額ノ給金ヲ拂ヘ且裁判所ノ雜費ヲ
支給ス但シ裁判所ノ雜費ハ常ニ同所ノ收納ヨ
リ超過スルカ故ニ其不足ノ分ハ國庫ヨリ支給
スルモノトス此一節ガビト氏ノ叙述ニ係ル
千八百五十六年布告郡裁判所條令ニ同所判
事書記官及ヒ上等使吏ニ給與スル定額俸金
ノ拂方ヲ制定ス
其條令第八十條ニ允テ郡裁判所判事ノ俸給
ハ大英國ノ國庫ヨリ仕拂フ可シ之ニ依テ大

蔵ノ委員ハ該俸ヲ仕拂権カヲ有ス又右判事
旅行ノ入費ハ議院之カ為ノ備ヘタル金額中
ヨリ支給ス可シ

同條令第八十四條ニ允テ郡裁判所書記官并
ニ上等使吏ノ俸給ハ本條令ニ基キ受納スル
手数料ニ拠テ成ル所ノ受納金中ヨリ之ヲ仕
拂フヘシ而シテ受納ノ金高若シ右俸給ヲ拂
フニ不足ナル中ハ其不足分ハ此等ノ用ニ供
スル為ノ議院ヨリ備フル金額ノ中ヲ以テ補
充ス可シ又右俸給ヲ仕拂フテ猶ホ餘贏アル
中ハ其餘分ハ大蔵省ニ輸送シテ之ヲ國庫ニ
上納スヘキナリ
同第八十五條 允テ郡裁判所ノ為メニ地所

ヲ買ヒ或ハ借リ家屋ヲ建築及ヒ修繕スル費
用又裁判所ノ家屋役局等ノ事ニ使用スル雇
人ノ給料及ヒ法庭用書籍并ニ役局用帳簿其
他郵便費及ヒ囚徒引致送付ニ付上等使吏ノ
入費等ハ大蔵省委員預テ右様ノ為ノ議院カ
備フル金額中ヨリ之ヲ仕拂フ可シ
又千八百六十六年布告第十二條ニ九テ郡裁
判所ノ書記官ニハ定額ノ俸給ヲ交付ス可シ
而シテ其俸給ヲ制定スル方法左ノ如シ即チ
其裁判所ニ來タル詞訟人年内二百名ヲ超サ
ル時ハ其年ノ俸給ハ百磅ポンドタル可シ又詞訟人
年二百名以上ニ登ルキハ六千名ニ達スル迄
テ俸給ノ額二十名ヲ加フル毎ニ四磅ヲ増ス

可シ但シ此俸給ノ額ハ其書記官カ使用スル
手代書記ノ給料ヲモ包含スルモノトス云々
以下畧ス

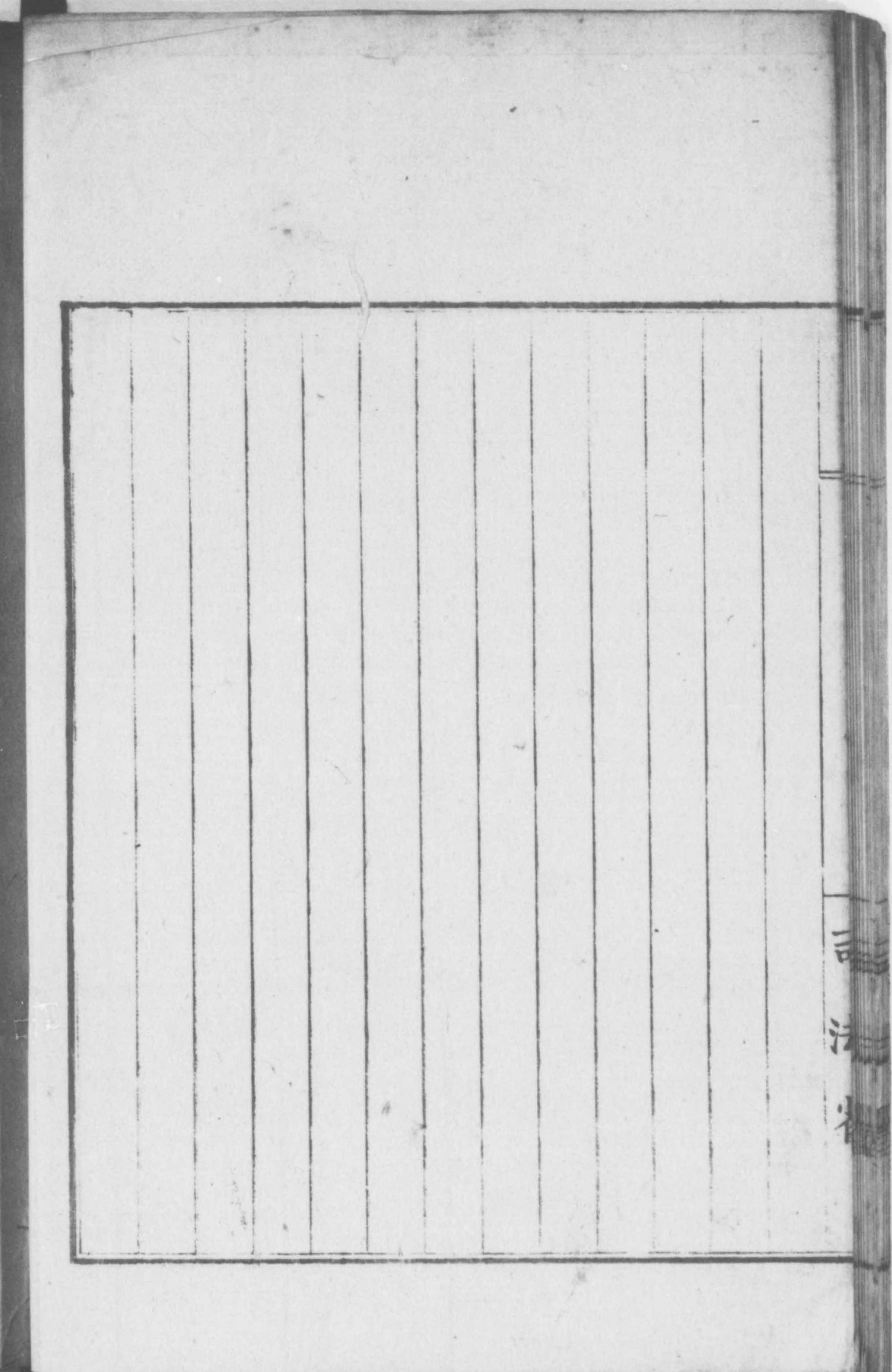
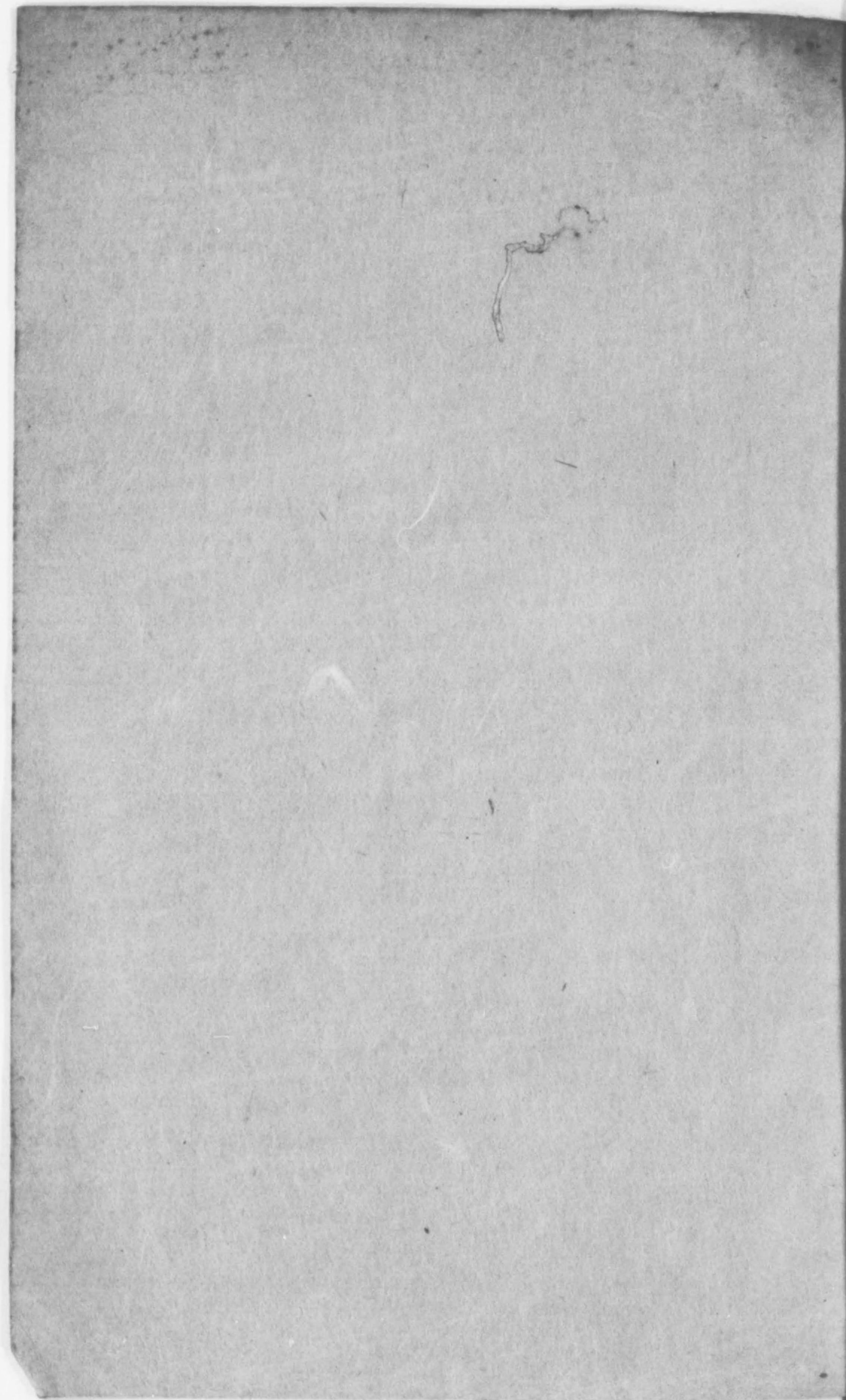
千八百五十六年布告第八十三條ニ郡裁判所
ノ上等使吏ハ大蔵省委員カ司法卿ノ認可ヲ
得テ制定スル定額ノ俸給ヲ受ヘシ又右俸給
ノ外ニ裁判執行ノ際物品ヲ保持セシニ付受
納スル手数料ハ自己ノ用ニ供スルヲ得ヘシ
而シテ右等ノ俸給ハ上等使吏ノ使用スル下
等使吏ノ給料ヲモ包含スルモノトス又該委
員ハ同卿ノ認可ヲ得テ上等使吏ノ俸給ヲ交
付スルニ其幾部ハ定額ナル俸給ヲ以テシ其
幾部ハ裁判所ノ諸命令ヲ執行スル手数料并

司法省文庫

第 2590 號

ニ旅費手當ヲ受納セシムル事ニ換テ之ヲ為
スヲ得ルナリ

2590



570

1

5